



# 埋 葬 式

— 新たに眠りし者の爲の祈禱 —

五線譜になつている部分は皆で歌います。永眠者の爲に皆で心を合わせて歌うこと自体が、天国の象りです。難しいところを無理に歌う必要はありませんが、「主憐めよ」「アミン」などの短く何度も繰り返される部分は、どうぞ一緒に歌ってください。

譜面中、五線譜上に  $\parallel$  〇  $\parallel$  とある部分は、その音程を保ちながら、その部分の歌詞（祈禱文）が持つ言葉の自然なリズムに則つて歌うことを意味しています。

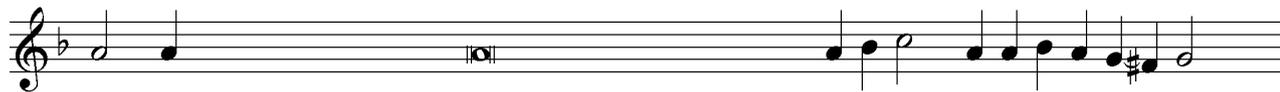
2010年12月 釧路管轄司祭ステファン内田 作成  
2016年03月 一部改定

司祭) われら かみ つね あが ほ いま いつ よよ  
我等の神は恒に崇め讃めらる、今も何時も世々に、



司祭) しゅ なんぢ あが ほ なんぢ いましめ われ おし たま  
主よ、爾は崇め讃めらる、爾の誠を我に訓え給え、

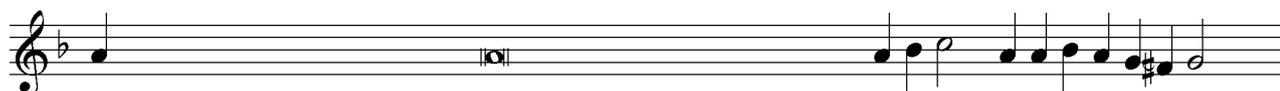
【 118聖詠 】



み ち に き ず な く し て し ゅ の ほ う り つ を お こ の う も の は さ い わ い な り 。  
道 ち 瑕 無 し 主 法 律 を 行 者 の 福



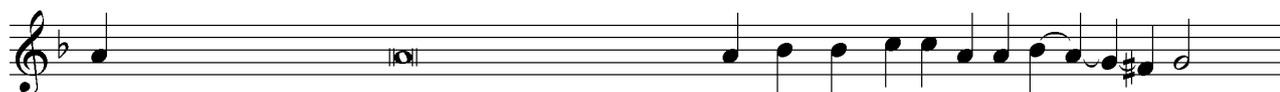
ア リ ル イ ヤ 。



か れ の け い じ を ま も り こ ころ を つ く し て か れ を た づ め る も の は さ い わ い な り 。  
彼 啓 示 守 心 盡 彼 尋 者 福



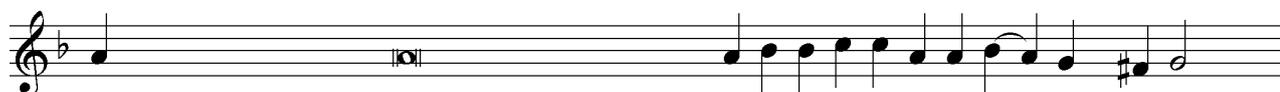
ア リ ル イ ヤ 。



なんぢがくちのほうりつはわがためにきんぎんせんせんよりもたつとし。  
爾 口 法 律 我 爲 金 銀 千 千 貴



ア リ ル イ ヤ 。



こうえいはちとことせいしんにきす、いまもいつもよよに、アミン。  
光 榮 父 子 聖 神 歸 今 何 時 世 世



ア リ ル イ ヤ 。

【 小聯禱 】

司祭) われらまたまたあんわ しゅ いの  
我等復又安和にして主に禱らん、



しゅ あわれ め よ 。  
主 憐

司祭) <sup>またねむ</sup>又 <sup>かみ</sup>寝りし <sup>ぼくひ</sup>神の <sup>たましい</sup>奴婢 (某)の <sup>あんそく</sup>靈 <sup>ため</sup>の <sup>およ</sup>安息の <sup>かれら</sup>爲、<sup>およ</sup>及び <sup>じゆう</sup>彼等に <sup>じゆう</sup>凡そ <sup>つみ</sup>自由と自由ならざる <sup>つみ</sup>罪の  
<sup>ゆる</sup>赦 <sup>ため</sup>されんが <sup>いの</sup>爲に <sup>いの</sup>禱る、



しゅ あわれ め よ 。  
主 憐

司祭) <sup>しゅかみ</sup>主 <sup>かれら</sup>神が <sup>たましい</sup>彼等の <sup>しよぎじん</sup>靈 <sup>あんそく</sup>を <sup>ところ</sup>諸義人の <sup>い</sup>安息する <sup>たま</sup>所 <sup>いの</sup>に入れ <sup>いの</sup>給わんことを <sup>いの</sup>禱る、



しゅ あわれ め よ 。  
主 憐

司祭) <sup>かれら</sup>彼等に <sup>かみ</sup>神の <sup>あわれみ</sup>憐 <sup>てんごく</sup>と <sup>しよぎい</sup>天國と <sup>ゆるし</sup>諸 <sup>たま</sup>罪の <sup>わし</sup>赦 <sup>おう</sup>とを <sup>わし</sup>賜わんことを <sup>おう</sup>ハリストス <sup>わし</sup>我が <sup>おう</sup>死せざる <sup>おう</sup>王 <sup>おう</sup>およ  
<sup>かみ</sup>び <sup>ねが</sup>神に <sup>ねが</sup>願う、



しゅ た ま え よ 。  
主 賜

司祭) <sup>しゅ</sup>主に <sup>いの</sup>禱らん、



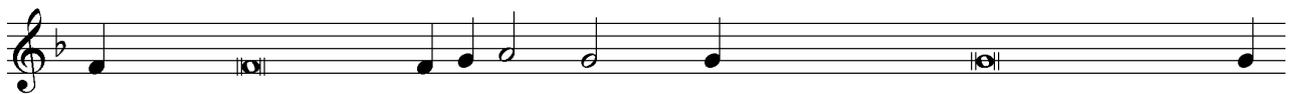
しゅ あわれ め よ 。  
主 憐

司祭) <sup>けだし</sup>蓋 <sup>われら</sup>ハリストス <sup>かみ</sup>我等の <sup>なんぢ</sup>神よ、<sup>ねむ</sup>爾 <sup>なんぢ</sup>は <sup>ぼくひ</sup>寝りし <sup>なんぢ</sup>爾 <sup>ぼくひ</sup>の <sup>なんぢ</sup>奴婢 (某)の <sup>ふくかつ</sup>復活と <sup>いのち</sup>生命と <sup>あんそく</sup>安息なり、<sup>われら</sup>我等  
<sup>こうえい</sup>光 <sup>なんぢ</sup>榮を <sup>なんぢ</sup>爾 <sup>むげん</sup>と <sup>ちち</sup>爾 <sup>しせいしぜん</sup>の <sup>いのち</sup>無原の <sup>ほどこ</sup>父と、<sup>なんぢ</sup>至 <sup>しん</sup>聖 <sup>けん</sup>至 <sup>いま</sup>善にして <sup>いま</sup>生命を <sup>いま</sup>施 <sup>いま</sup>す <sup>いま</sup>爾 <sup>いま</sup>の <sup>いま</sup>神と <sup>いま</sup>に <sup>いま</sup>獻 <sup>いま</sup>ず、<sup>いま</sup>今も  
<sup>いつ</sup>何時 <sup>よよ</sup>も <sup>よよ</sup>世 <sup>よよ</sup>に、



ア ミ ン。

【 安息の爲の讃詞 】



しゅよ なんぢは あ が め ほ め ら る 、 なんぢの い ま し め を わ れ に お し え  
主 爾 爾 崇 讃 讃 爾 誠 我 我 訓

たまえ。

せいじんのむれはいのちのいづみとてんどうのものをえたり。ねがわくは  
聖 人 群 生 命 泉 天 堂 門 得 願

われもつうかいをもつてみちをえん。われはほろびしひつじなり、  
我 痛 悔 以 道 ち 得 我 亡 び 羊

きゅうせいしゅよわれをよびかえしてすくいたまえ。  
救 世 主 我 を 呼 返 救 給 え。

しゅよなんぢはあがめほめらる、なんぢのいましめをわれにおしえ  
主 爾 崇 讃 る、 爾 誠 我 訓

たまえ。

かみのこひつじをつたえ、おのれもこひつじのごとくほふられて、  
神 羔 傳 え 己 羔 如 屠

おいざるえいきゅうのいのちにうつりしせいなるちめいしやよ、  
老 永 久 生 命 移 聖 致 命 者

われらにおいめのゆるしをたまわんことをせつにいのりたまえ。  
我 等 債 赦 賜 切 祈 給 え。

しゅよなんぢはあがめほめらる、なんぢのいましめをわれにおしえ  
主 爾 崇 讃 る、 爾 誠 我 訓

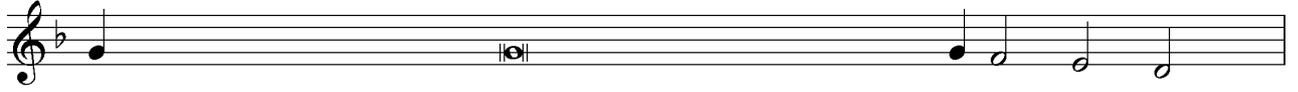
たまえ。



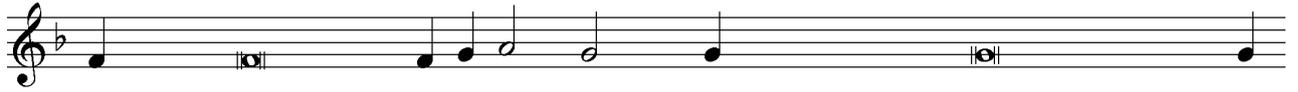
せまくくるしきみちをとおり、いけるうちじゅうじかをくびきのごと  
狭 苦 道 通 り、 生 中 十 字 架 衡 如



くお い、しんじてわれにしたがえるもろびとよきたりて、  
負 い、 信 我 徒 衆 人 來 り て、



なんちのためになえしほまれとてんのえい冠をたのしめよ。  
爾 爲 備 譽 ま れ と て ん の え い 冠 を た の し め よ。



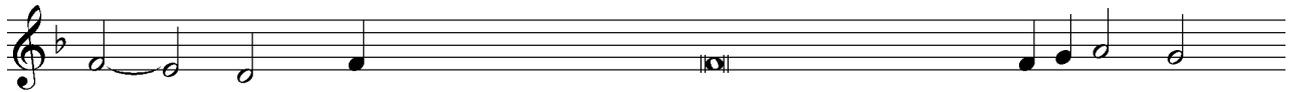
しゅよなんちはあがめほめらる、なんちのいましめをわれにおしえ  
主 爾 崇 讃 ら る、 爾 誠 我 訓



たまえ。  
給 え。



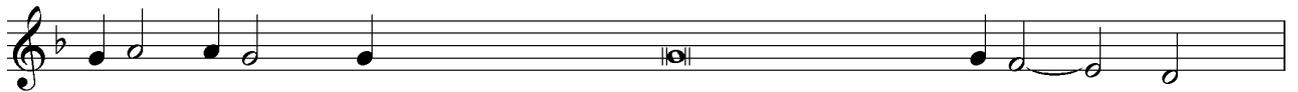
われはざいあくのきずをおえども、なんちがいいがたきこうえいのかたち  
我 罪 惡 創 負 ども、 爾 言 難 光 榮 像



なり。しゅさいよ、なんちのつくりしものにあわれみをたれ、  
主 宰 爾 造 者 憐 垂

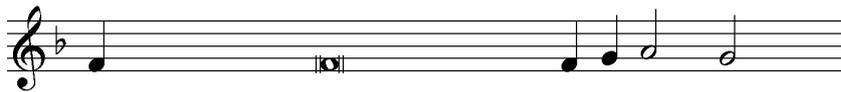


なんちのめぐみにてきよめ、せつにのぞめるしょうこくをわれに  
爾 恵 に て き よ め、 せ つ に の ぞ め る し ょ う こ く を わ れ に

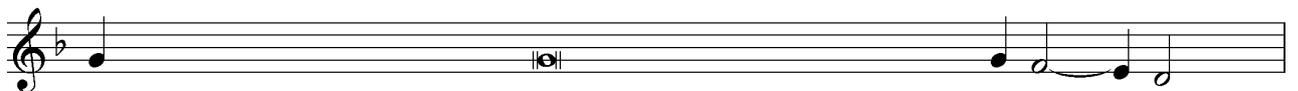


あたえて、われをまたらくえんにすむものとなしたまえ。  
與 え て、 我 を ま た ら く え ん に す む も の と な し た ま え。

【 聖三者讃詞 】



こうえいはちちとことせいしんにきす、  
光 榮 父 子 聖 神 歸 す、



ひとつのしんせいのみつのひかりをつつしみうとうてよぶ。  
一 神 性 三 光 を つ つ し み う と う て よ ぶ。



むげんのちちとどうむげんのことせいしんよ、なんぢはせいなり。  
無原父同無原子聖神んよ、なんぢはせいなり。



われらしんをもつてなんぢにつとむるものをてらして、えいえんの  
我等信以爾勤者照して、えいえんの遠



ひよりいだしたまえ。  
火出給え。

【 生神女讃詞 】



いまもいつもよよに、アミン。  
今何時世世に、アミン。



もろびとのすくいのため に、みにてかみをうみしきよきものよ、  
衆人救爲に、身神生潔きものよ、



よろこべよ。ひとのやからはなんぢによつてすくいをえたり。  
慶人族爾因救得



きよくしてさんびたるしょうしんぢよよ、ねがわくはわれらも  
浄讃美生神女よ、ねがわくはわれらも



なんぢによつてんどうをえん。  
爾因天堂うをえん。



アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ、かみよこうえいはなんぢにきす。  
神光榮爾歸



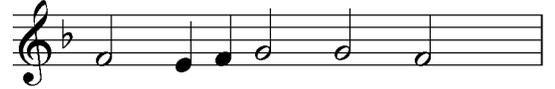
アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ、かみよこうえいはなんぢにきす。  
神光榮爾歸



アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ、かみよこうえいはなんぢにきす。  
神光榮爾歸

【 小聯禱 】

司祭) われらまたまたあんわ <sup>しゅ いの</sup> 我等復 又安和にして主に禱らん、



しゅ あわれ め よ 。  
主 憐

司祭) またねむ <sup>かみ ぼくひ たましい あんそく ため およ かれら およ じゆう じゆう つみ</sup> 又 寝りし神の僕婢(某)の 靈 の安息の爲、及び彼等に凡そ自由と自由ならざる罪の  
<sup>ゆる</sup> 赦されんが爲に禱る、



しゅ あわれ め よ 。  
主 憐

司祭) <sup>しゅかみ かれら たましい しよぎじん あんそく</sup> 主 神が彼等の 靈 を諸義人の安息する <sup>ところ い たま</sup> 所 に入れ給わんことを禱る、



しゅ あわれ め よ 。  
主 憐

司祭) <sup>かれら かみ あわれみ てんごく しよざい ゆるし たま</sup> 彼等に神の 憐 と天國と諸罪の赦 とを賜わんことをハリストス我が死せざる王 <sup>わし おう</sup> およ  
<sup>かみ ねが</sup> び神に願う、



しゅ たま え よ 。  
主 賜

司祭) <sup>しゅ いの</sup> 主に禱らん、



しゅ あわれ め よ 。  
主 憐

司祭) <sup>けだし われら かみ なんぢ ねむ なんぢ ぼくひ ふくかつ いのち あんそく われら</sup> 蓋 ハリストス我等の神よ、爾 は寝りし 爾 の僕婢(某)の復活と生命と安息なり。我等  
<sup>こうえい なんぢ なんぢ むげん ちち しせいしぜん いのち ほどこ なんぢ しん けん いま</sup> 光榮を爾 と 爾 の無原の父と、至聖至善にして生命を施す 爾 の神とに獻ず、今も  
<sup>いつ よよ</sup> 何時も世に、



ア ミ ン。

しゅ よ、ねむりしなんぢがぼくひのたましいをやすんぜしめたたまえ。  
 主 寝 爾 僕 婢 靈 安 給 賜 。

しゅ よ、ねむりしなんぢがぼくひのたましいをやすんぜしめたたまえ。  
 主 寝 爾 僕 婢 靈 安 給 賜 。

こうえいはちとことせいしんにきす、いまでもいつもよよに、アミン。  
 光 榮 父 子 聖 神 歸 今 何 時 世 世 。

いざないのあらしにて、なみのたちあがるよのうみを見て、  
 誘 暴 風 浪 立 揚 世 海 観 。

なんぢのおだやかなるみなとにつきてよぶ。  
 爾 穩 港 着 呼 。

あわれみふかきしゅよ、わがいのちをほろびよりにすくい  
 憐 深 主 我 生 命 亡 救 。

たまえ。  
 給 賜 。

【 小聯禱 】

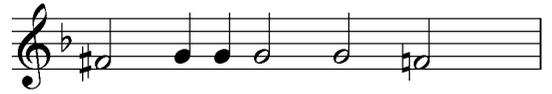
司祭) われらまたまたあんわ <sup>しゅ いの</sup> 我等復又安和にして主に禱らん、

しゅ あわれ め よ 。  
 主 憐 。

司祭) またねむ <sup>かみ ぼくひ</sup> 又寝りし神の僕婢(某)の <sup>たましい あんそく ため</sup> 靈の安息の爲、及び彼等に <sup>およ かれら およ じゆう じゆう</sup> 凡そ自由と自由ならざる <sup>つみ</sup> 罪の  
<sup>ゆる</sup> 赦されんが <sup>ため いの</sup> 爲に禱る、

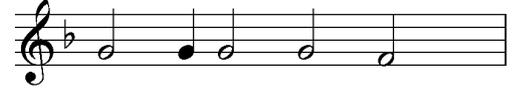
しゅ あわれ め よ 。  
 主 憐 。

司祭) <sup>しゅかみ かれら たましい</sup> 主神が彼等の <sup>しよぎじん あんそく</sup> 靈を諸義人の安息する <sup>ところ い たま</sup> 所に入れ給わんことを <sup>いの</sup> 禱る、



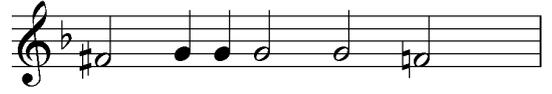
しゅ あわれ め よ 。  
主 憐

司祭) 彼等<sup>かれら</sup>に神<sup>かみ</sup>の憐<sup>あわれみ</sup>と天國<sup>てんごく</sup>と諸罪<sup>しょざい</sup>の赦<sup>ゆるし</sup>とを賜<sup>たま</sup>わんことをハリストス<sup>わ</sup>我が死<sup>し</sup>せざる王<sup>おう</sup>およ  
び神<sup>かみ</sup>に願<sup>ねが</sup>う、



しゅ たま え よ 。  
主 賜

司祭) 主<sup>しゅ</sup>に禱<sup>いの</sup>らん、



しゅ あわれ め よ 。  
主 憐

司祭) 蓋<sup>けだし</sup>ハリストス<sup>われら</sup>我等<sup>かみ</sup>の神<sup>なんぢ</sup>よ、爾<sup>ねむ</sup>は寢<sup>なんぢ</sup>りし爾<sup>ぼくひ</sup>の僕<sup>ふくかつ</sup>婢<sup>いのち</sup>(某<sup>あんそく</sup>)の復<sup>われら</sup>活<sup>い</sup>と生命<sup>けん</sup>と安<sup>いま</sup>息<sup>い</sup>なり。我等  
光<sup>こうえい</sup>榮<sup>なんぢ</sup>を爾<sup>なんぢ</sup>と爾<sup>むげん</sup>の無<sup>ちち</sup>原<sup>しせいしぜん</sup>の父<sup>いのち</sup>と、至<sup>ほどこ</sup>聖<sup>なんぢ</sup>至<sup>しん</sup>善<sup>けん</sup>にして生命<sup>いま</sup>を施<sup>い</sup>す爾<sup>い</sup>の神<sup>い</sup>とに獻<sup>い</sup>ず、今<sup>いま</sup>も  
何<sup>いつ</sup>時<sup>よ</sup>も世<sup>よ</sup>に、



ア ミ ン。

【 コンダク 】



ハリスト スよ 、 な んぢが ぼくひの たま しいを 、 しよ せいじ んと  
爾 僕 婢 の 靈 諸 聖 人



と も に 、 やま いも かなし みも なげ きも な く 、 おわ  
借 疾 悲 歎 終



り な きい の ちの ある ところ に やすんぜし め た ま え 。  
生 命 處 安 給



ただ、 はか のう え のなげ きにうた いてい うべ し 。 ア リル イヤ、  
唯 墓 上 の嘆 歌 云



ア リル イヤ、ア リル イ ヤ 。

【 提綱 (プロキメン) 】

司祭) <sup>えいち</sup> 睿智、

誦經) <sup>たましい</sup> プロキメン、<sup>なんぢ</sup> 靈 <sup>いまゆ</sup> よ、<sup>みち</sup> 爾 <sup>さいわい</sup> が今往く路は <sup>あんそく</sup> 福 <sup>ところ</sup> なり、<sup>なんぢ</sup> 安息の <sup>ため</sup> 所、<sup>そな</sup> 爾 <sup>そな</sup> の爲に備えられ  
しに<sup>よ</sup> 因る、



<sup>たましい</sup> た ま し い よ、<sup>なんぢ</sup> 爾 <sup>いまゆ</sup> が 今 往 <sup>みち</sup> く 路 <sup>さいわい</sup> は 福 さいわい なり、



<sup>あんそく</sup> あんそく の <sup>ところ</sup> ところ、<sup>なんぢ</sup> 爾 <sup>ため</sup> の た め に <sup>そな</sup> そ な え ら れ し に <sup>よ</sup> 因 る 。

誦經) <sup>わ</sup> 我 <sup>たましい</sup> が 靈 <sup>なんぢ</sup> よ、<sup>へいあん</sup> 爾 <sup>かえ</sup> の 平 安 に 歸 れ、<sup>けだししゅ</sup> 蓋 <sup>なんぢ</sup> 主 <sup>おん</sup> は 爾 <sup>ほどこ</sup> に 恩 を 施 せり、



<sup>たましい</sup> た ま し い よ、<sup>なんぢ</sup> 爾 <sup>いまゆ</sup> が 今 往 <sup>みち</sup> く 路 <sup>さいわい</sup> は 福 さいわい なり、



<sup>あんそく</sup> あんそく の <sup>ところ</sup> ところ、<sup>なんぢ</sup> 爾 <sup>ため</sup> の た め に <sup>そな</sup> そ な え ら れ し に <sup>よ</sup> 因 る 。

誦經) <sup>たましい</sup> 靈 <sup>なんぢ</sup> よ、<sup>いまゆ</sup> 爾 <sup>みち</sup> が 今 往 路 <sup>さいわい</sup> は 福 なり、



<sup>あんそく</sup> あんそく の <sup>ところ</sup> ところ、<sup>なんぢ</sup> 爾 <sup>ため</sup> の た め に <sup>そな</sup> そ な え ら れ し に <sup>よ</sup> 因 る 。

【 使徒經 (アポストロス) 】

司祭) <sup>えいち</sup> 睿智、

誦經) <sup>せいしと</sup> 聖使徒パヴェルがテサロニカ人 <sup>じん</sup> に <sup>たつ</sup> 達 する <sup>ぜんしょ</sup> 前 書 <sup>よみ</sup> の 讀、

司祭) <sup>つつし</sup> 謹 <sup>き</sup> み て 聽 く べ し、

誦經) <sup>けいてい</sup>兄弟よ、<sup>ねむ</sup>寝りし者に<sup>いた</sup>至りては、<sup>われなんぢら</sup>我爾等が<sup>し</sup>知らざるを<sup>ほつ</sup>欲せず、<sup>なんぢら</sup>爾等が<sup>のぞみ</sup>望なき<sup>た</sup>他の<sup>もの</sup>者の

<sup>ごと</sup>如く<sup>かな</sup>哀しま<sup>たらん</sup>が<sup>ため</sup>爲なり。<sup>けだしも</sup>蓋若し<sup>われら</sup>我等<sup>し</sup>イイススの<sup>し</sup>死して<sup>ふくかつ</sup>復活せし<sup>しん</sup>ことを<sup>すなわち</sup>信ぜば、<sup>則</sup>則

<sup>かみ</sup>神は<sup>あ</sup>イイススに<sup>ねむ</sup>在りて<sup>もの</sup>寝りし<sup>かれ</sup>者をも<sup>とも</sup>彼と<sup>たずさ</sup>偕に<sup>けだしわれらしゆ</sup>攜えん。<sup>ことば</sup>蓋我等<sup>もつ</sup>主の<sup>なんぢら</sup>言を<sup>以て</sup>以て<sup>爾等</sup>に

<sup>つ</sup>語ぐ。<sup>われら</sup>我等、<sup>い</sup>生きて<sup>しゆ</sup>主の<sup>きた</sup>來る<sup>まで</sup>迄<sup>そん</sup>存する<sup>もの</sup>者は、<sup>ねむ</sup>寝りし<sup>もの</sup>者に<sup>さき</sup>先<sup>けだししゆみづか</sup>だた<sup>らん</sup>ざらん。<sup>蓋</sup>蓋主<sup>親ら</sup>親ら、

<sup>ごうれい</sup>號令と<sup>てんししゆ</sup>天使首の<sup>こえ</sup>聲と<sup>かみ</sup>神の<sup>らつば</sup>筈と<sup>ともな</sup>に<sup>てん</sup>伴<sup>くだ</sup>わ<sup>しこう</sup>れて、<sup>あ</sup>天より<sup>降らん</sup>降らん。<sup>而</sup>而して<sup>ハリストス</sup>ハリストスに<sup>在り</sup>在り

<sup>し</sup>て<sup>もの</sup>死せし<sup>ま</sup>者は<sup>ふくかつ</sup>先づ<sup>そのち</sup>復活せん。<sup>われらい</sup>其後、<sup>そん</sup>我等<sup>もの</sup>生きて<sup>かれら</sup>存する<sup>とも</sup>者は、<sup>くも</sup>彼等と<sup>あ</sup>偕に<sup>雲</sup>に<sup>擧げ</sup>擧げられて、

<sup>しゆ</sup>主を<sup>くうちゆう</sup>空中に<sup>むか</sup>迎えん。<sup>か</sup>是く<sup>ごと</sup>の<sup>つね</sup>如く<sup>しゆ</sup>して<sup>とも</sup>常に<sup>お</sup>主と<sup>居らん</sup>偕に<sup>居らん</sup>居らん。

### 【 アリルイヤ 】

司祭) <sup>えいち</sup>睿智、



誦經) <sup>しゆ</sup>主よ、<sup>なんぢ</sup>爾が<sup>えら</sup>選び<sup>ちか</sup>近づけし<sup>もの</sup>者は<sup>さいわい</sup>福なり、



誦經) <sup>かれ</sup>彼の<sup>たましい</sup>靈は<sup>ふく</sup>福に<sup>お</sup>居らん、



### 【 福音經 (エヴァンゲリオン) 】

司祭) <sup>えいち</sup>睿智、<sup>つつし</sup>肅みて<sup>た</sup>立て、<sup>せいふくいんけい</sup>聖福音經を<sup>き</sup>聴くべし、

司祭) <sup>しゅうじん</sup>衆人に<sup>へいあん</sup>平安、



司祭) イオアン<sup>でん</sup>傳<sup>せいふくいんけい</sup>の聖福音<sup>よみ</sup>經の讀。



しゅよ こう え い は なんじに き し 、 こう え い は な んじに き す 、  
主 光 榮 爾 歸 し 、 光 榮 爾 歸 す 、

司祭) 謹<sup>つつし</sup>みて聽<sup>き</sup>くべし、主<sup>しゅ</sup>は彼<sup>かれ</sup>に來<sup>きた</sup>れるイウデヤ人<sup>じん</sup>に謂<sup>い</sup>えり、我<sup>われ</sup>誠<sup>まこと</sup>に誠<sup>まこと</sup>に爾等<sup>なんぢら</sup>に語<sup>つ</sup>ぐ。我

が言<sup>ことば</sup>を聽<sup>き</sup>きて我<sup>われ</sup>を遣<sup>つかわ</sup>しし者<sup>もの</sup>を信<sup>しん</sup>ずる人<sup>ひと</sup>は永<sup>えい</sup>遠<sup>えん</sup>の生命<sup>いのち</sup>を有<sup>たも</sup>ち、且<sup>かつ</sup>審<sup>しん</sup>判<sup>ばん</sup>の爲<sup>ため</sup>に來<sup>きた</sup>らず、

すなわちし<sup>すなわち</sup>乃<sup>し</sup>死<sup>し</sup>より生命<sup>いのち</sup>に移<sup>うつ</sup>れり。我<sup>われ</sup>誠<sup>まこと</sup>に誠<sup>まこと</sup>に爾等<sup>なんぢら</sup>に語<sup>つ</sup>ぐ。時<sup>とき</sup>は來<sup>きた</sup>る、今<sup>いま</sup>は是<sup>これ</sup>なり、死<sup>し</sup>せし

もの<sup>もの</sup>かみ<sup>かみ</sup>こ<sup>こ</sup>こえ<sup>こえ</sup>き<sup>き</sup>これ<sup>これ</sup>き<sup>き</sup>い<sup>い</sup>けだしちち<sup>けだしちち</sup>おのれ<sup>おのれ</sup>うち<sup>うち</sup>いのち<sup>いのち</sup>たも<sup>たも</sup>ごと<sup>ごと</sup>か<sup>か</sup>  
者は神<sup>かみ</sup>の子<sup>こ</sup>の聲<sup>こえ</sup>を聞<sup>き</sup>かん。之<sup>これ</sup>を聞<sup>き</sup>きて生<sup>い</sup>きん。蓋<sup>い</sup>父<sup>けだしちち</sup>が己<sup>おのれ</sup>の中<sup>うち</sup>に生命<sup>いのち</sup>を有<sup>たも</sup>つが如<sup>ごと</sup>く、此

く<sup>く</sup>の如<sup>ごと</sup>く子<sup>こ</sup>にも己<sup>おのれ</sup>の中<sup>うち</sup>に生命<sup>いのち</sup>を有<sup>たも</sup>たしめ、且<sup>かつ</sup>彼<sup>か</sup>に審<sup>しん</sup>判<sup>ばん</sup>を 行<sup>おこな</sup>う權<sup>けん</sup>を與<sup>あた</sup>えたり、其<sup>その</sup>人<sup>ひと</sup>の

子<sup>こ</sup>たるに因<sup>よ</sup>りてなり。之<sup>これ</sup>を奇<sup>あや</sup>しむ勿<sup>なか</sup>れ、蓋<sup>い</sup>時<sup>けだし</sup>は來<sup>とき</sup>る、凡<sup>およ</sup>そ墓<sup>はか</sup>の中<sup>うち</sup>に在<sup>あ</sup>る者<sup>もの</sup>は神<sup>かみ</sup>の子<sup>こ</sup>の聲<sup>こえ</sup>

を聞<sup>き</sup>かん、而<sup>しこう</sup>して善<sup>ぜん</sup>を 行<sup>おこな</sup>いし者<sup>もの</sup>は生命<sup>いのち</sup>の復<sup>ふく</sup>活<sup>かつ</sup>に出<sup>い</sup>で、惡<sup>あく</sup>を爲<sup>な</sup>しし者<sup>もの</sup>は定<sup>てい</sup>罪<sup>ざい</sup>の復<sup>ふく</sup>活<sup>かつ</sup>

出<sup>い</sup>でん。我<sup>われ</sup>何<sup>なに</sup>事<sup>ごと</sup>をも己<sup>おのれ</sup>に由<sup>よ</sup>りて 行<sup>おこな</sup>う能<sup>あた</sup>わず。聞<sup>き</sup>く所<sup>ところ</sup>に遵<sup>したが</sup>いて審<sup>しん</sup>判<sup>ばん</sup>す、而<sup>しこう</sup>して我<sup>われ</sup>が

審<sup>しん</sup>判<sup>ばん</sup>は義<sup>ぎ</sup>なり。蓋<sup>い</sup>我<sup>われ</sup>己<sup>おのれ</sup>の旨<sup>むね</sup>を求<sup>もと</sup>めず、乃<sup>すなわち</sup>我<sup>われ</sup>を遣<sup>つかわ</sup>しし父<sup>ちち</sup>の旨<sup>むね</sup>を求<sup>もと</sup>むるなり。



しゅよ こう え い は なんじに き し 、 こう え い は な んじに き す 、  
主 光 榮 爾 歸 し 、 光 榮 爾 歸 す 、

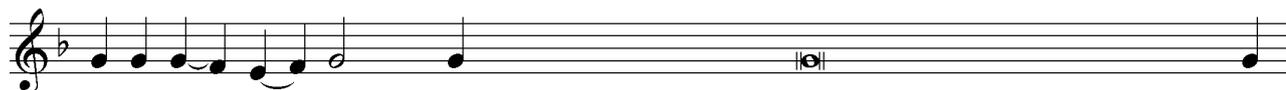
【 讚詞 】



きょう だいよ、きた れ、かみにかんや し て、わかれのせづんを  
兄 弟 來 神 感謝 離 別 接 吻



しせしものになさん。けだしかれはしんぞくをはな れ、はか  
死 者 爲 蓋 彼 親 族 離 墓



にいそぎて、すでにうきよのこととよくにそまるにくたいの  
急 既 浮 世 事 慾 染 肉 體



こととをおもんばから ず。しんぞくとしたしきものはいまいづこに  
事 慮 親 族 親 者 今 何 處

あ る や 、 わ か る る と き せ ま れ り 。 か れ の や す げ し め  
 在 別 時 逼 り 彼 の 安

ら れ ん こ と を し ゆ に い の る べ し 。  
 事 主 禱

こ う え い は ち ち と こ と せ い し ん に き 歸 す 、  
 光 榮 父 子 聖 神

き ょ う だ い と ほ う ゆ う し ん ぞ く と し り び と よ 、 わ れ の こ え も な く い き も  
 兄 弟 朋 友 親 族 知 び と よ 我 の 聲 も な く い き も

な く 、 な ん じ ら の た め に ふ す を み て 、 わ が た め に な け よ 。  
 無 爾 等 爲 臥 見 我 爲 泣

け だ し わ れ き の う な ん じ ら と と も に か た り し も 、 に わ か に し の お そ る  
 蓋 我 昨 日 爾 等 與 語 俄 死 畏

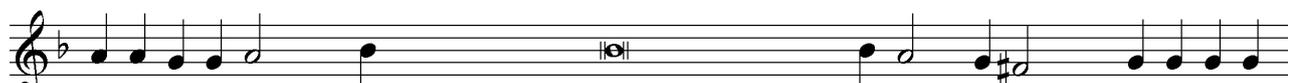
べ き と き は わ れ に い た れ り 。 わ れ を あ い す る も の よ 、 み な  
 時 我 至 我 愛 者 皆

き た り て 、 わ か れ の せ づ ぷ ん を わ れ に な せ 。 わ れ い ま よ り  
 來 離 別 接 吻 我 爲 我 今

な ん ぢ ら と と も に お ら ず 、 ま た な ん ぢ ら と と も に か た ら ざ ら ん 。 い と  
 爾 等 偕 居 又 爾 等 偕 語 至

お お や け な る し ん ぱ ん や に ゆ け ば な り 。 か し こ に は ぼ く と き み 、  
 公 審 判 者 往 彼 處 は 僕 君

と も に た ち 、 お う と へ い し 、 と め る も の と ま づ し き も の 、 く ら い を  
 共 立 王 兵 士 富 者 貧 者 位



おなじうす 。 けだしおのおのそのおこないによ りて 、 あるいは  
同 蓋 各 のおの 其 行 依 りて 、 或



さかえをえ 獲 、 あるいははぢをうけ 承 ン。もろびとにせつにねご う。  
榮 獲 或 耻 承 衆 人 切 願



つねにわがためにハリストカみにいのれよ 。 そのわがつみによりて  
常 我 爲 神 禱 其 我 罪 由



われをくるしみのところにくださ ず 、 すなわちいのちのひかりの  
我 苦 處 下 即 生 命 光



ところにいれたまわ ンがためな り 。  
處 入 給 爲 禱



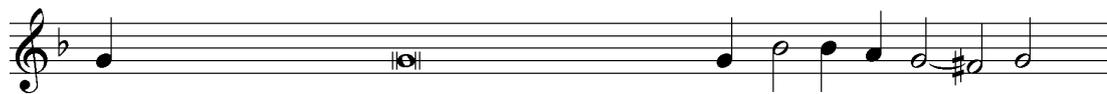
いまもいつもよよ に 、 ア ミ ン。  
今 何 時 世 世 今 何 時 世 世 今 何 時 世 世



ハリストよ、なんじをうみしもの 、 およびなんぢのぜんく、しと 、 よげんや 、  
爾 生 者 及 爾 前 驅 使 徒 預 言 者



せいしゆきょう、こくしょうしゃ、ぎじん、およびしよせいじんのきとうによ りて 、  
聖 主 教 克 肖 者 義 人 及 諸 聖 人 祈 禱 因



ねむりしなんじのぼくひをやすんぜしめたま え 。  
寝 爾 僕 婢 安 給 禱

【 天主經 】

誦經) せい かみ せい ゆうき せい じょうせい もの われら あわれ  
聖なる神、聖なる勇毅、聖なる常生の者よ、我等を憐めよ。

せい かみ せい ゆうき せい じょうせい もの われら あわれ  
聖なる神、聖なる勇毅、聖なる常生の者よ、我等を憐めよ。

せい かみ せい ゆうき せい じょうせい もの われら あわれ  
聖なる神、聖なる勇毅、聖なる常生の者よ、我等を憐めよ。

こうえい ちち こ せいしん き いま いつ よよ  
光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、アミン。

しせいさんしゃ われら あわれ しゅ われら つみ いさぎよ しゅさい われら あやまち  
至聖三者よ、我等を憐めよ、主よ、我等の罪を潔くせよ、主宰よ、我等の愆を

ゆる せい もの のぞ われら やまい いや たま ことごと なんぢ な よ  
赦せ、聖なる者よ、臨みて我等の病を癒し給え、悉く爾の名に因る。

しゅあわれ しゅあわれ しゅあわれ  
主 憐めよ、主 憐めよ、主 憐めよ、

こうえい ちち こ せいしん き いま いつ よよ  
光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世々に、アミン。

てん いま われら ちち ねがわく なんぢ な せい なんぢ くに きた なんぢ むね てん  
天に在す我等の父よ、願は爾の名は聖とせられ、爾の國は來り、爾の旨は天

おこな ごと ち おこな わがにちよう かねて こんにちわれら あた たま われら おいめ  
に行わるるが如く地にも行われん。我日用の糧を今日我等に與え給え。我等に債

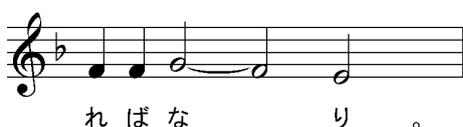
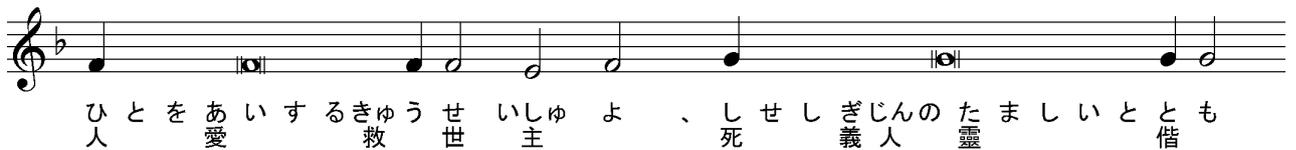
もの われらゆる ごと われら おいめ ゆる たま われら いざない みちび なおわれら  
ある者を我等免すが如く我等の債を免し給え。我等を誘に導かず、猶我等を

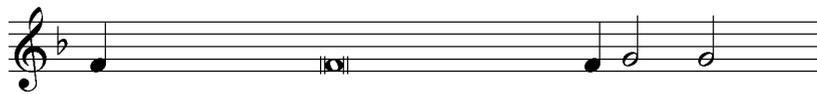
きょうあく すく たま  
凶惡より救い給え。

司祭) けだしくに けんとう こうえい なんぢちち こ せいしん き いま いつ よよ  
蓋國と權能と光榮は爾父と子と聖神に歸す、今も何時も世々に、

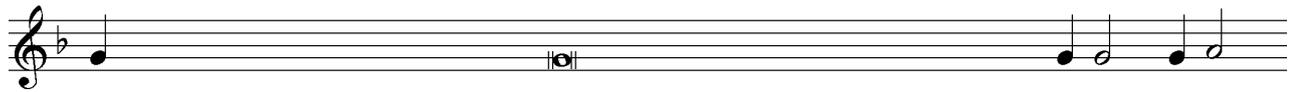


【 リティア(熱衷祈祷)の讃詞 】

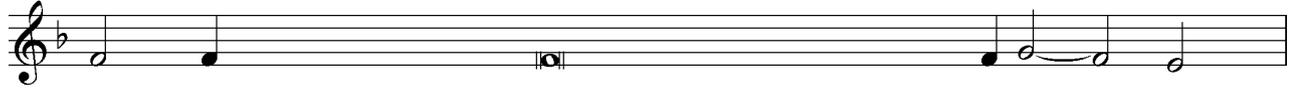




こう え い は ち ち と こ と せ い し ん に き す 、  
光 榮 父 子 聖 神 歸 す 、



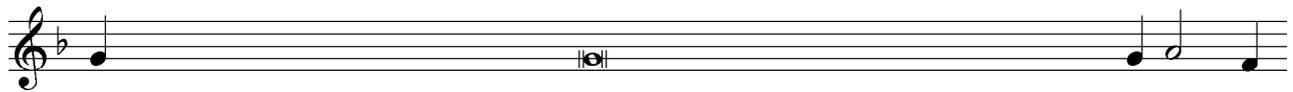
なんぢ は ぢ ご く に く だ り て つ な が れ し も の の く さ り を と き た る か み な  
爾 地 獄 降 繋 者 の 鎖 を 釈 きたるか 神 みな



り 。 み づ か ら なん ぢ が ぼ く ひ の た ま し い を や す げ し め た ま え 。  
親 爾 僕 婢 靈 を 安 給 えたま え 。



い ま も い つ も よ よ に 、 ア ミ ン 。  
今 何 時 世 世 に 、 ア ミ ン 。



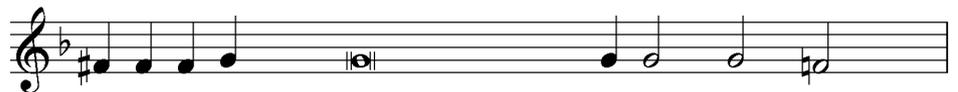
ひ と り い さ ぎ よ く き ず な き ど う て い ぢ よ 、 た ね な く し て か み を う み し  
獨 潔 さ ぎ よ く 瑕 童 貞 女 種 神 を 生 し



も の よ 、 か れ ら の た ま し い の す く わ れ ん こ と を い の り た ま え 。  
者 の よ 、 彼 等 の 靈 の 救 け ん こ と を 祈 り 給 えたま え 。

【 重 聯 禱 】

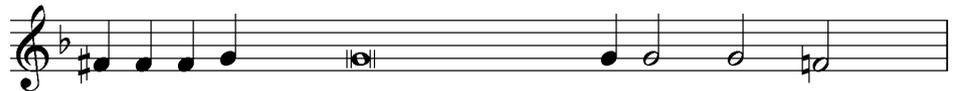
司 祭) 神よ、爾の大なる憐に因て我等を憐めよ、爾に禱る、聆き納れて憐めよ、



しゅあわれめしゅあわれめしゅあわれめよ。  
主 憐 主 憐 主 憐

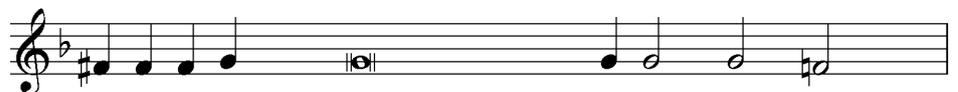
司 祭) 又寝りし神の僕婢(某)の靈の安息の爲、及び彼等に凡そ自由と自由ならざる罪の

ゆるされんが爲に禱る、



しゅあわれめしゅあわれめしゅあわれめよ。  
主 憐 主 憐 主 憐

司 祭) 主神が彼等の靈を諸義人の安息する處に入れ給わんことを祈る、



しゅあわれめしゅあわれめしゅあわれめよ。  
主 憐 主 憐 主 憐

司祭) <sup>かれら</sup> 彼等に神の <sup>かみ</sup> 憐 <sup>あわれみ</sup> と天國と諸 <sup>てんごく</sup> 罪の <sup>しょざい</sup> 赦 <sup>ゆるし</sup> とを賜 <sup>たま</sup> わんことを、<sup>わがし</sup> ハリストス我 <sup>おうおよ</sup> 死せざる王 及び

<sup>かみ</sup> 神に願 <sup>ねが</sup> う、



司祭) <sup>しゅ</sup> 主に禱 <sup>いの</sup> らん、



司祭) <sup>もろもろ</sup> 諸 <sup>れいしん</sup> の靈神と <sup>もろもろ</sup> 諸 <sup>にくたい</sup> の肉體との神、<sup>かみ</sup> 死を亡 <sup>し</sup> ぼし <sup>ほろ</sup> 惡魔を <sup>あくま</sup> 虚 <sup>むなし</sup> くし、<sup>なんぢ</sup> 爾 <sup>せかい</sup> の世界に <sup>いのち</sup> 生命を <sup>たま</sup> 賜

<sup>しゅ</sup> いし主よ、<sup>なんぢ</sup> 爾 <sup>ねむ</sup> 親ら <sup>なんぢ</sup> 寝りし <sup>ぼくひ</sup> 爾 <sup>たましい</sup> の僕婢(某)の <sup>ひか</sup> 靈 <sup>ところ</sup> を光 <sup>しげ</sup> る <sup>くさば</sup> 處、<sup>へいあん</sup> 茂き草場、<sup>ところ</sup> 平安の <sup>ところ</sup> 處、

<sup>やまい</sup> 病 <sup>かなしみ</sup> と <sup>なげき</sup> 悲 <sup>とお</sup> と <sup>ところ</sup> 歎 <sup>あんそく</sup> との遠 <sup>ぜん</sup> ざかる <sup>ひと</sup> 處 <sup>あい</sup> に安 <sup>かみ</sup> 息 <sup>より</sup> せしめ、<sup>よし</sup> 善 <sup>かみ</sup> にして <sup>より</sup> 人 <sup>かみ</sup> を愛 <sup>より</sup> する <sup>より</sup> 神 <sup>より</sup> なる <sup>より</sup> に因 <sup>より</sup> て

<sup>かれ</sup> 彼 <sup>あるい</sup> が <sup>ことば</sup> 或 <sup>あるい</sup> は <sup>おこない</sup> 言 <sup>あるい</sup> 、<sup>おもい</sup> 或 <sup>おか</sup> は <sup>ことごと</sup> 行 <sup>つみ</sup> 、<sup>ゆる</sup> 或 <sup>たま</sup> は <sup>けだし</sup> 思 <sup>ひと</sup> にて <sup>ひと</sup> 犯 <sup>ひと</sup> し <sup>ひと</sup> し <sup>ひと</sup> 悉 <sup>ひと</sup> くの <sup>ひと</sup> 罪 <sup>ひと</sup> を <sup>ひと</sup> 赦 <sup>ひと</sup> し <sup>ひと</sup> 給 <sup>ひと</sup> え。 <sup>ひと</sup> 蓋 <sup>ひと</sup> 人

<sup>ひとり</sup> 一 <sup>い</sup> も <sup>つみ</sup> 生 <sup>おこな</sup> きて <sup>もの</sup> 罪 <sup>ただなんぢ</sup> を <sup>つみ</sup> 行 <sup>なんぢ</sup> わ <sup>ぎ</sup> ざる <sup>えいえん</sup> 者 <sup>ぎ</sup> な <sup>なんぢ</sup> し、<sup>ことば</sup> 唯 <sup>ことば</sup> 爾 <sup>ことば</sup> は <sup>ことば</sup> 罪 <sup>ことば</sup> な <sup>ことば</sup> し、<sup>ことば</sup> 爾 <sup>ことば</sup> の <sup>ことば</sup> 義 <sup>ことば</sup> は <sup>ことば</sup> 永 <sup>ことば</sup> 遠 <sup>ことば</sup> の <sup>ことば</sup> 義 <sup>ことば</sup> 、<sup>ことば</sup> 爾 <sup>ことば</sup> の <sup>ことば</sup> 言 <sup>ことば</sup>

<sup>しんじつ</sup> は <sup>けだし</sup> 眞 <sup>われら</sup> 實 <sup>かみ</sup> な <sup>なんぢ</sup> り。 <sup>ねむ</sup> 蓋 <sup>なんぢ</sup> <sup>ぼくひ</sup> ハ <sup>ふくかつ</sup> リ <sup>いのち</sup> ス <sup>いのち</sup> 我 <sup>いのち</sup> 等 <sup>いのち</sup> の <sup>いのち</sup> 神 <sup>いのち</sup> よ、<sup>いのち</sup> 爾 <sup>いのち</sup> は <sup>いのち</sup> 寝 <sup>いのち</sup> り <sup>いのち</sup> し <sup>いのち</sup> 爾 <sup>いのち</sup> の <sup>いのち</sup> 僕 <sup>いのち</sup> 婢 <sup>いのち</sup> (某) <sup>いのち</sup> の <sup>いのち</sup> 復 <sup>いのち</sup> 活 <sup>いのち</sup> と <sup>いのち</sup> 生命 <sup>いのち</sup> と

<sup>あんそく</sup> 安 <sup>われら</sup> 息 <sup>なんぢ</sup> な <sup>なんぢ</sup> り。 <sup>むげん</sup> 我 <sup>ちち</sup> 等 <sup>しせいしぜん</sup> 光 <sup>いのち</sup> 榮 <sup>ほどこ</sup> を <sup>なんぢ</sup> 爾 <sup>しん</sup> と <sup>しん</sup> 爾 <sup>しん</sup> の <sup>しん</sup> 無 <sup>しん</sup> 原 <sup>しん</sup> の <sup>しん</sup> 父 <sup>しん</sup> と <sup>しん</sup> 至 <sup>しん</sup> 聖 <sup>しん</sup> 至 <sup>しん</sup> 善 <sup>しん</sup> に <sup>しん</sup> して <sup>しん</sup> 生命 <sup>しん</sup> を <sup>しん</sup> 施 <sup>しん</sup> す <sup>しん</sup> 爾 <sup>しん</sup> の <sup>しん</sup> 神 <sup>しん</sup> と

<sup>けん</sup> に <sup>いま</sup> 獻 <sup>いつ</sup> ず、 <sup>よよ</sup> 今 <sup>よよ</sup> も <sup>よよ</sup> 何 <sup>よよ</sup> 時 <sup>よよ</sup> も <sup>よよ</sup> 世 <sup>よよ</sup> 世 <sup>よよ</sup> に、

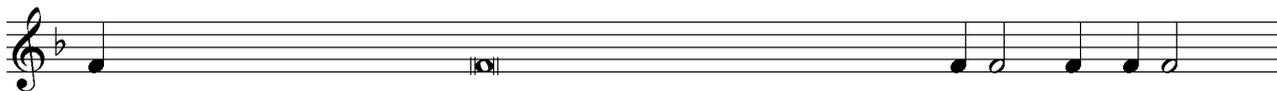


司祭) <sup>えいち</sup> 睿 <sup>えいち</sup> 智、

司祭) <sup>しせい</sup> 至 <sup>しょうしんぢよ</sup> 聖 <sup>われら</sup> なる <sup>すく</sup> 生 <sup>たま</sup> 神 <sup>たま</sup> 女 <sup>たま</sup> よ、<sup>たま</sup> 我 <sup>たま</sup> 等 <sup>たま</sup> を <sup>たま</sup> 救 <sup>たま</sup> い <sup>たま</sup> 給 <sup>たま</sup> え、



司祭) ハリストス<sup>かみわれら たのみ</sup>神我等の<sup>こうえい なんぢ き</sup>侍よ、<sup>こうえい なんぢ き</sup>光榮は爾に歸す、光榮は爾に歸す。



こ うえ い は ち ち と こ と せ い し ん に き す 、 い ま も い つ も よ よ に 、 ア ミ ン 。  
光 榮 父 子 聖 神 歸 今 何 時 世 世



し ゆ あ わ れ め 、 し ゆ あ わ れ め 、 し ゆ あ わ れ め よ 、 ふ く を く だ せ 。  
主 憐 主 憐 主 憐 福 降

司祭) 死より<sup>し ふくかつ</sup>復活し、<sup>い もの</sup>生ける者と<sup>し もの</sup>死せし者を<sup>そのぜんのう</sup>其全能の手に<sup>たも たま</sup>保ち給うハリストス<sup>われら まこと</sup>我等の<sup>まこと</sup>眞の

かみ そのしじょう はは こうえい さんび せいしと こくしょうほうしん わがしよしんぶおよ  
神は、其至浄なる母、光榮にして讚美たる聖使徒、克肖捧神なる我諸神父及び

しよせいじん きとう より ねむ ぼくひ たましい しよぎじん すまい い  
諸聖人の祈禱に因て、寝りし奴婢(某)の靈を諸義人の住所に入れ、アブラアムの

ふところ やす しよぎじん れつ くわ およ われら あわれ たま ぜん ひと あい  
懐に安んぜしめ、諸義人の列に加え、及び我等を憐み給わん。善にして人を愛す

る主なればなり。



ア ミ ン 。

司祭) 主よ、<sup>しゆ なんぢ ぼくひ</sup>爾の<sup>さいわい</sup>奴婢(某)の<sup>ねむり えいえん あんそく</sup>福なる<sup>あた</sup>寝に<sup>かれら えいえん きおく</sup>永遠の安息を<sup>な</sup>與え、<sup>な</sup>彼等に<sup>な</sup>永遠の記憶を爲

し給え。



え い え 遠 ん の き 記 お 憶 く 、  
永 遠 遠 ん の き 記 お 憶 く 、



え い え 遠 ん の き 記 お 憶 く 、  
永 遠 遠 ん の き 記 お 憶 く 、



え い え 遠 ん の き 記 お 憶 く 。  
永 遠 遠 ん の き 記 お 憶 く 。

### 【 赦罪詞 】

司祭) <sup>しゆ いの</sup>主に禱らん。



しゅ あ わ れ め よ 。  
主 憐

司祭) 罪に 陥 りし 者 を 縛 り 及 び 釋 く 神 聖 な る 權 を、 其 門 徒 及 び 使 徒 等 に、 又 彼 等 を 以 て

われら たま しゅ われら かみ ねがわ なんぢ しんし こ よ おい  
我等にも 賜 いし 主 イイスス・ハリストス 我等の 神 は、 願 くは 爾 に 神子よ、 此の世に 於て

おこな じゆう ふじゆう しょざい ゆる たま いま いつ よよ  
行 いし 自由と不自由との 諸 罪 を 赦 し 給 わん。 今 も 何 時 も 世 世 に。



ア ミ ン。

— 葬儀祈禱終了 —

【 出棺時 】

司祭) <sup>われら かみ つね あが ほ</sup> 我等の神は恒に崇め讃めらる、<sup>いま いつ よよ</sup> 今も何時も世世に、



ア ミ ン。

司祭) <sup>えいち</sup> 睿智、

【 聖三の歌（柩が聖堂を出るまで繰り返し歌うこと） 】



聖 い て 天 主 、 聖 い ゆ う き 毅 、 聖 い じょ う せ い



な る しゅ 主 、 わ れ ら を あ わ れ め よ 。



聖 い て 天 主 、 聖 い ゆ う き 毅 、 聖 い じょ う せ い



な る しゅ 主 、 わ れ ら を あ わ れ め よ 。



聖 い て 天 主 、 聖 い ゆ う き 毅 、 聖 い じょ う せ い



な る しゅ 主 、 わ れ ら を あ わ れ め よ 。